

例えば、パピルスに記された2500年前の叙事詩を読み解こうとするとき、
例えば、宇宙誕生直後3分間の元素の形成を解明しようとするとき、
想像力は、人と悠久の歴史、人と大宇宙の間を隔てる垣根を壊し、
未知なる世界に繋がる架け橋となる。

例えば、異なる文化同士に通底する普遍性を見出そうとするとき、
想像力は、人と人、国と国の間を隔てる垣根を壊し、
未知なる他者に繋がる架け橋となる。

そして、それら想像力は、
永い時間を隔てた未来に思いを馳せ、
豊かな人類社会を創るための、新たな叡知となる。

想像力がもたらす創造性

2023年10月、東京大学は、安田講堂で挙行された秋季入学式で、約800名の大学院・学部入学者を迎えました。

式辞を通して藤井輝夫総長は彼らに、2022年のノーベル生理学・医学賞受賞者スバンテ・ペーボ博士による古代DNAの解析手法を例に、研究は基本的に、「なぜ」という問いに自らの「想像力」で立てた仮説を実証し答を導き出す、今は結果から仮説を導く「data driven」アプローチが盛んになっていることを紹介しました。だからこそ、データからだけでは分からない、存在の複雑さや不思議さへの洞察が大切で、

人間のインスピレーションが不可欠であることを丁寧に説明し、研究における「想像力」の重要性を強調しました。さらに、学問の手法は多元化しているが、決して単独の専門性に則った手法では最先端の研究はできなくなっていること、根底にある連関を見落とさず、未知の多様な他者との協働が、新たな問題解決の糸口に繋がる可能性が高いことを伝えました。

そして、自らの可能性を信じ、周囲の多様な考えを尊重し、対話を大事にしながら探求の歩みを進めて欲しいと激励しました。